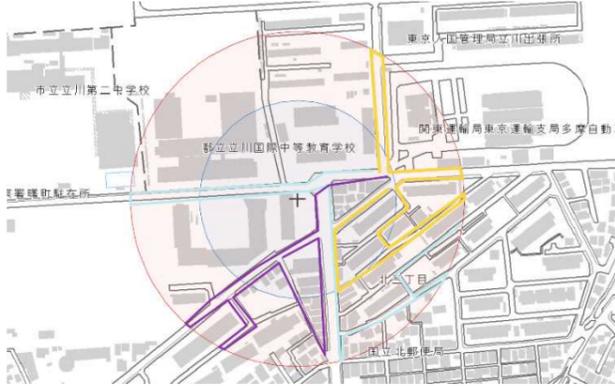


【団体名（よみがな）】 国立あかるくらぶ（くにたちあかるくらぶ）	【団体種別】 大学公認サークル																												
【連絡先】 kunitachi.akarclub@gmail.com	【設立年】 2015 年 【HP】 http://www.k-akarclub.com 【Twitter】 @kunitachi_ac 【Facebook】 https://fb.me/KunitachiAkarclub																												
【代表者氏名】 大木 謙士朗	【所属】 一橋大学 社会学部 3年																												
【団体概要】 一橋大学学生 26 人、東洋大学学生 2 人で構成。ごみ拾いを中心に活動する「環境」、国立市内の防災活動の活性化を目指す「防災」、国立市の魅力ある未来を目指す「まちづくり」の3つの分野を主な活動とする。またほとんどの活動は、国立あかるくらぶのメンバーだけでなく、地域の人々や行政機関を巻き込んで行っている。																													
【活動の背景と目的】 東京都国立市をもっと明るくしたい、市内の学生がもっと地域に貢献できる場を作りたい、との思いから国立あかるくらぶは設立された。特に、環境分野では国立市を「日本一きれいな街にする」ことを最終目標としており、その第一歩としてポイ捨てごみ問題の解決を目的にごみ拾いを行っている。																													
【活動内容】 環境分野では2015年の国立あかるくらぶ設立以来、国立市内を対象にごみ拾いを週2回実施している。また、ごみ拾い時等に自作アプリを使用して、ごみの種類、量、場所などを計測した後、それらのデータの分析を行う。さらには、国立市役所と共催で、ごみ拾い活動をさらに身近にするための市民向けごみ拾いイベントを開催している。																													
【2017年の活動スケジュール】 <table border="0"> <tr> <td>1月 拾い初め</td> <td>6月 ごみ拾いチャンピオンシップ in 大学通り 主催</td> </tr> <tr> <td>1月 永見国立市長表敬訪問</td> <td>6月 大学通り緑地帯花植え</td> </tr> <tr> <td>2月 第2回全国ユース環境フォーラム</td> <td>6月 第2回国立市中央児童館ごみ拾い</td> </tr> <tr> <td>2月 第2回全国ユース環境活動発表大会 環境大臣賞</td> <td>7月 若者と市民の環境会議 発表</td> </tr> <tr> <td>2月 ヤフー本社環境研修</td> <td>8月 独立行政法人環境再生保全機構主催の 国連大学でのSDGs関連イベントに参加</td> </tr> <tr> <td>2月 第12回東海道ゴミ拾い駅伝 優勝</td> <td>8月 第3回国立市中央児童館ごみ拾い</td> </tr> <tr> <td>2月 国立市生活環境部ごみ減量課にて国立駅前伊勢屋所における 実験報告会及び国立市ごみ行政勉強会</td> <td>9月 環境省主催事業「Re-style」サポーター就任</td> </tr> <tr> <td>2月 国立市環境ネットワーク会議 活動発表</td> <td>10月 株式会社ピリカ ユーザーインタビュー掲載</td> </tr> <tr> <td>3月 クリーン多摩川国立のつどい 参加</td> <td>10月 ポイ捨て定点観測企画（後述）開始</td> </tr> <tr> <td>3月 一橋大学 学生表彰</td> <td>11月 クリーン多摩川国立のつどい 参加</td> </tr> <tr> <td>3月 greenbird 一橋大学チーム 初回おそうじ参加</td> <td>11月 日本容器包装リサイクル協会「容リ協ニュース」 No.75 連載企画「地球を守り隊」掲載</td> </tr> <tr> <td>4月 一橋大学新入生向けごみ拾いアプリ体験会</td> <td>11月 第4回国立市中央児童館ごみ拾い</td> </tr> <tr> <td>4月 ごみ分別方法ピラ配布及びメディア掲載</td> <td>通年 週に2回のごみ拾い</td> </tr> <tr> <td>5月 第1回国立市中央児童館ごみ拾い</td> <td>通年 第10期国立市ごみ問題審議会委員（公募市民）</td> </tr> </table>		1月 拾い初め	6月 ごみ拾いチャンピオンシップ in 大学通り 主催	1月 永見国立市長表敬訪問	6月 大学通り緑地帯花植え	2月 第2回全国ユース環境フォーラム	6月 第2回国立市中央児童館ごみ拾い	2月 第2回全国ユース環境活動発表大会 環境大臣賞	7月 若者と市民の環境会議 発表	2月 ヤフー本社環境研修	8月 独立行政法人環境再生保全機構主催の 国連大学でのSDGs関連イベントに参加	2月 第12回東海道ゴミ拾い駅伝 優勝	8月 第3回国立市中央児童館ごみ拾い	2月 国立市生活環境部ごみ減量課にて国立駅前伊勢屋所における 実験報告会及び国立市ごみ行政勉強会	9月 環境省主催事業「Re-style」サポーター就任	2月 国立市環境ネットワーク会議 活動発表	10月 株式会社ピリカ ユーザーインタビュー掲載	3月 クリーン多摩川国立のつどい 参加	10月 ポイ捨て定点観測企画（後述）開始	3月 一橋大学 学生表彰	11月 クリーン多摩川国立のつどい 参加	3月 greenbird 一橋大学チーム 初回おそうじ参加	11月 日本容器包装リサイクル協会「容リ協ニュース」 No.75 連載企画「地球を守り隊」掲載	4月 一橋大学新入生向けごみ拾いアプリ体験会	11月 第4回国立市中央児童館ごみ拾い	4月 ごみ分別方法ピラ配布及びメディア掲載	通年 週に2回のごみ拾い	5月 第1回国立市中央児童館ごみ拾い	通年 第10期国立市ごみ問題審議会委員（公募市民）
1月 拾い初め	6月 ごみ拾いチャンピオンシップ in 大学通り 主催																												
1月 永見国立市長表敬訪問	6月 大学通り緑地帯花植え																												
2月 第2回全国ユース環境フォーラム	6月 第2回国立市中央児童館ごみ拾い																												
2月 第2回全国ユース環境活動発表大会 環境大臣賞	7月 若者と市民の環境会議 発表																												
2月 ヤフー本社環境研修	8月 独立行政法人環境再生保全機構主催の 国連大学でのSDGs関連イベントに参加																												
2月 第12回東海道ゴミ拾い駅伝 優勝	8月 第3回国立市中央児童館ごみ拾い																												
2月 国立市生活環境部ごみ減量課にて国立駅前伊勢屋所における 実験報告会及び国立市ごみ行政勉強会	9月 環境省主催事業「Re-style」サポーター就任																												
2月 国立市環境ネットワーク会議 活動発表	10月 株式会社ピリカ ユーザーインタビュー掲載																												
3月 クリーン多摩川国立のつどい 参加	10月 ポイ捨て定点観測企画（後述）開始																												
3月 一橋大学 学生表彰	11月 クリーン多摩川国立のつどい 参加																												
3月 greenbird 一橋大学チーム 初回おそうじ参加	11月 日本容器包装リサイクル協会「容リ協ニュース」 No.75 連載企画「地球を守り隊」掲載																												
4月 一橋大学新入生向けごみ拾いアプリ体験会	11月 第4回国立市中央児童館ごみ拾い																												
4月 ごみ分別方法ピラ配布及びメディア掲載	通年 週に2回のごみ拾い																												
5月 第1回国立市中央児童館ごみ拾い	通年 第10期国立市ごみ問題審議会委員（公募市民）																												
以下、それぞれの選考基準に関して団体のアピールをして下さい。																													
①活動の軸 国立市を「日本一きれいな街にする」ことを最大の目標としており、ポイ捨てされたごみが全くない街を目指すことを主眼に置いている。そのために以下の2つが重要と考えている。「散乱しているごみの分布や種類を正確に調べ、なぜそのような結果になったのかを把握し、対策すること」（以下、目標A）と「ポイ捨てごみへの問題意識を広め、ごみ拾いをする人を増やすこと」（以下、目標B）の2つである。目標Aは捨てられるごみを減らすこと、目標Bは捨てられたごみを減らすことに直結する。この2つの目標を達成することで「捨てられるごみよりも拾われるごみの量が多い」という状態を維持し、国立市を「日本一きれいな街にする」ことを目指す。																													
②チーム力 持続的な活動とするため、一丸となり楽しくごみ拾いをする心を心がけている。その例として、国立市を対象とした毎週のごみ拾い活動に加え、約111kmのコースの走行時間と拾ったごみの重さを競う「第12回東海道ゴミ拾い駅伝」に参加した。参加に際しては、普段の活動で培ったポイ捨てごみを発見する技術、自作のごみ拾いアプリを用いて練られた戦術、メンバー皆が持ったごみ拾いへの自信など、各人の得意分野を活かせるよう工夫した。さらには普段より活動を応援して下さる地域の方々の献身的なサポートもあり、20時間を切る好タイム、166.3kgという圧倒的なごみ収集量で優勝を収めた。																													
③分析力・改善力 国立市を「日本一きれいな街にする」という最大の目標へ持続的に取り組むため、目標A・Bの両輪のバランスを常に意識している。昨年度は目標Aに向けポイ捨てごみに関する調査分析の活動を深めたが、その結果を広めるという事には十分に組み立てていなかった。本年度は、ごみ拾いで得られた知見をポイ捨てごみ問題に関心のない学生や地域の人々にも共有し、共通の問題意識をもってごみ拾い活動に取り組むという目標Bに向けた活動に力を入れた。これによって国立あかるくらぶの想いに共感する人が増え、活動の持続的な発展に寄与した。またそのこと自体が、調査活動へデータの蓄積という形で目標Aに向けた活動に寄与しており、目標A・Bの両輪をもって活動に持続的に取り組む仕組みが出来上がりつつある。																													

④発信力 得意としてきた目標Aに向けた活動について積極的に発信してきており、直近では廃棄物業界の業界紙でご紹介いただいた。本年度はさらに目標Bに関して「楽しいごみ拾い活動」を広めるための発信にも力を入れている。6月には、サークル内で開発したアプリを用いて拾ったごみの量を競うイベントを、「ごみ拾いチャンピオンシップ in 大学通り」と題して、国立市役所、greenbird 一橋大学チームと共催した。当イベントには地元高校の生徒をはじめ、幅広い世代が参加し、ごみ拾いの楽しさを伝えることに成功した。そのほかにも様々な形での発信に力を入れている。例えば、地元児童館での中高生とのごみ拾い、国立市役所が発行する中高生向けマガジンの編集への参加、活動ごとのSNS発信など、ポイ捨てごみ問題をより身近な問題と感じてもらうため積極的な発信を行っている。実際これらを見た若年層のごみ拾いの参加が増え、目標Bの達成へ一歩近づくことができた。
⑤環境貢献度 本年度は70回を超える地域の方々のごみ拾い活動を行っており、子供や年配の方、様々な国の方も含む延べ500人以上の人々と活動を共にし、10000リットル近くのごみ拾った。この活動を通じて国立あかるくらぶが持つポイ捨てごみ問題に対する意識を広めることができた。それに加え、若年層に関心をもってもらうことの必要性を感じており、行政とも連携しながら地元中高生への発信を継続的にを行っている（先述）。また、本年度から変更された国立市のごみ分別方法について、わかりやすく説明するチラシを一橋大学の新入生全員約1000人に配布した。このチラシはネット上でも話題となり、学生に国立市の分別について周知するきっかけとなった他、複数のメディアでも取り上げられ、市の環境行政をより効果的なものとする一助となった。
【自由アピール活動経歴・写真や図などOK!】 <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 48%;"> <p>目標Aに関する活動 ごみ拾い活動の中で、どのような地域ごどのような種類・量のごみがあるのかという経験則を得た。しかしこれらを分析し、対策のヒントとする事で目標Aを達成するためには、客観的なデータを用いて、得た経験則が事実であるか確認しなければならぬ。そのために以下のようなツール開発や実験に取り組んでいる。 <ツールの例> ・ごみの位置情報を記録閲覧するwebアプリケーション ・ごみの位置情報を記録するデバイス <実験の例> テーマ「コンビニエンスストアの近くに集合ごみが多く分布することの実証」（※集合ごみとはビニール袋などに複数のごみがまとめられて捨てられているごみのことを指し、単体のペットボトルなどと区別している。）</p> <p>あるコンビニエンスストアからの直線距離0m~88.5m、88.5m~150mの範囲に落ちている集合ごみの量を比較し、「コンビニエンスストアの近くで集合ごみが多くなる」という経験則が正しいのかを検証している。仮に正しいければ、より効率的なごみ拾いを行うことができる他、「ごみ箱の配置やデザインを変更する」「包装のデザインをポイ捨てしづらいものにする」など、集合ごみ発生を抑制する方法の提言もできる。</p> </div> <div style="width: 48%;"> <p>目標Bに関する活動 環境への負担や街並の汚染などを理由に、人々にごみ拾い活動の重要性を訴える取り組みがこれまで多く行われてきた。しかしごみ拾いを「悪い状態を元に戻すための活動」と捉えるだけでは、ごみ拾いに良いイメージを持ち活動に取り組む人を増やす事、すなわち目標Bの達成は難しいという問題意識をもっている。 ごみを拾う行為そのものが「楽しさ」を持った価値を生み出す行為である、ということを積極的に発信し人々の関心を集めたいと考えている。そのため以下の取り組みを行っている。 <イベントの例> ・「ごみ拾いチャンピオンシップ in 大学通り」の開催（ごみの種類や量でポイントをつけ、そのポイントに応じたグループ対抗戦を行った。地元高校生も多数参加した。） ・毎週のごみ拾いの参加の敷居を低くする工夫 ・地元児童館との「児童館ごみ拾い」の共催（国立市の児童館は小学生だけでなく中高生への発信も目指しており、その一環として共催した。） ・「第12回東海道ゴミ拾い駅伝」への参加 <広報の例> ・ごみ拾いSNS「PIRIKA」へのごみ拾い結果の投稿（ごみ拾いをしている全国の人々との交流や、拾った量のSNS内でのランキングが見られる。） ・ごみ拾い活動の様子のSNSでの発信</p> </div> </div>
 <p>上記実験で調査している範囲とルート。中心にコンビニエンスストアが存在する。（国土地理院『地理院地図』に図を追記し作成。）</p>
 <p>上記「大学通りごみ拾いチャンピオンシップ」での集合写真</p>

【団体名（よみがな）】 大阪大学環境サークル GECS (おおさかだいがくかんきょうさーくるげっくす)	【団体種別】 学内サークル
【連絡先】 gaidai.eco.challengers@gmail.com	【設立年】 2003 年 【HP】 http://gecs.main.jp 【Twitter】 @handai_gecs
【代表者氏名】 松岡 裕大	【所属】 大阪大学 工学部 2年
【団体概要】 『学生』という立場から環境問題の改善に貢献する」という理念のもと、大阪大学豊中キャンパスを拠点として、大学内外で環境活動を行っている大阪大学公認サークルです。 現在1年生68人、2年生39人の計107人で活動を行っています。	
【活動の背景と目的】 近年、環境問題がより深刻化しているなか、認識していても実際に行動を起こす人が依然として少ないという現状があります。そこで、敬遠されがちな環境活動へのイメージを変えるべく、「環境問題に関心が薄い人に環境活動に対し興味を持ってもらうきっかけ作り」をすること目的に、今年度は新たに、RPGとリアル体験脱出ゲームといった「楽しさ」という要素を絡めたイベントを企画し実行しました。これは環境問題とは一見関係のなさそうな意外性のある要素を掛け合わせることでイベントの参加へのハードルを下げ、気軽に活動に参加してもらうという学生ならではの柔軟な発想が生きた活動となっています。	
【活動内容】 主な活動地域は、大学を中心に池田市、吹田市、箕面市、豊中市となっており、行政やNPO法人等協力の元で活動しています。また、週1回サークル全体で、ミーティングを行っています。年に数回、下記のようなイベントを全体で企画・開催する一方で、普段は壁面緑化班、環境教育班、Mck班（ゴミ拾い）、ccc班（環境啓発）、SHERRY班（リユース）、R班（リサイクル）、花咲かにいさん班（景観保全）の7つの班に分かれて活動しており、全体でイベントを開催する際に、各班の活動で得た知識や経験を持って再集結する形となっています。	
【2017年の活動スケジュール】 全体イベント 4月 環境×RPG 生物多様性をテーマに小学生を対象に環境教育を行ったイベントです。子供に関心をもってもらうためにロールプレイングゲーム（RPG）の要素を組み合わせたイベントです。 6月 1回生イベント 箕面川で行われた川清掃イベントです。このイベントは入って間もない1年生が主体となって企画・運営・広報を行います。 8月 リアル脱出体験ゲーム ～温暖化へのカウントダウン～ 環境省が実施している政策であるCOOL CHOICEをもとに、「賢い選択をしていくと地球温暖化から脱出できる」というテーマのもと行いました。環境×RPGと同じようにリアル脱出ゲームの要素を組み合わせたイベントです。 また、班活動は、年中通して、7つの班が様々な分野で行っております。	

以下、それぞれの選考基準に関して団体のアピールをして下さい。

①活動の軸
 GECSでは、地域の人々にもっと気軽に楽しく環境活動ができるということを知ってもらうということを目的に、様々な楽しさと参加者に環境問題への興味をもってもらうことを重視したイベントを設け、その都度、地域の人々と一体となって活動を続けています。

②チーム力
 イベントを開催する際、企画の中心メンバーは毎回立候補制で決まりますが、中心メンバーがミーティングで皆に企画内容を提案したり、その企画へのアドバイスや意見を聞いたり企画の段階でも全員が関わります。また、イベントに関する情報も中心メンバーが全員に伝えることで、同じ目的意識を持ち、組織的な運営が行われています。

③分析力・改善力
 イベントごとに参加者アンケートをとり、それをもとに得た反省点や改善点を熟考した結果、8月に今年度2つ目の新たなイベントとなるリアル体験脱出ゲームを開催しました。現在は今年度に企画した2つの新しいイベントを振り返り、今後両イベントの継続の有無を含めたサークル全体の活動を検討しています。

④発信力
 今年度行ったイベントでは、小学生を対象としていたため、子供たちが環境活動に興味を持ってもらえるようにビラのデザインを工夫し、市の協力を得て、地域の小学校にビラを配布したことで、大勢の参加者が集まりました。さらに、市の広報紙でGECSの活動やイベントを紹介することで幅広い世代から我々がどのような団体であるか認知してもらえるよう努力しています。

⑤環境貢献度
 私たちはイベントを通して、地域の方の環境意識に対して貢献しています。今年度行ったイベントである「環境×RPG」、「リアル脱出ゲーム」の2つ合わせて86人の一般参加者にアンケートに回答していただきました。その中には「楽しかった」「環境問題について学べた」などの言葉があり、環境教育という点で環境問題の解決に貢献していると考えています。

【自由アピール(活動経歴・写真や図などOK!)】



環境×RPGの様子



リアル体験脱出ゲームの様子